



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

聖天信仰の心得

住職 平田真純

待乳山の経本『大聖歡喜天禮拜作法』の巻末に、「信者の心得」が掲載されています。今まで何度か引用しているかもしれませんが、今一度ここに記します。

一、お詣りの日は身も心も清浄に保つこと、忌服中、又はご婦人の月の障りの間は本堂内の参詣を遠慮すること。

二、参詣は細く長く絶えず続け、参拝中は尊天の御加護を深く信じて、一心不乱に祈ること。

三、心願の通じないのは参詣の方法にかけるところがある為ですから直接行者の指導を受けること。

四、最初からあまり無理な願いはせぬこと。願いが叶って反って身の為にならぬことがあります。

五、行者に祈禱を依頼したときは其の期間中身を慎んで、共に心願成就を祈るよう心掛けること。

六、信仰が進むにつれ自宅にお祀りされたい方は御影又はお札を祀り、御本尊は絶対にお祀りせぬこと。

七、世間で、尊天は怖ろしき神とか、又は尊天を信じると『子孫の福を一代にとる』とか言い伝えられるが根もなきことです。ですから気にするに及びません。

八、心願成就の暁は尊天に対する報謝の心を忘れず、

布施の心掛けを第一にすること。

九、尊天の御祈禱の方法は、華水供、浴油供、大般若百味供養などがあります。祈願の次第により何れかを依頼すること。

十、断ち物は強い決心が必要ですから、むしろせぬ方がよい。

この「信者の心得」は、聖天様を心のよりどころとされる方々の、いわば基本フォームです。この基本とは「聖天様を大切にする習慣」と考えられてもよいかと思えます。

どんな物事にも基本というものがありません。基本をおろそかにして先に進むと、いざとなると応用がきかなかつたり、本番で役に立たなかつたりします。状況によつては絶対ではないかもしれませんが、長い年月をかけて行者やご信徒が培ってきた心得は是非に尊重すべきものでしょう。

なお九番目の項に「華水供」とありますが、当山の毎朝の御祈禱「別座供・浴油供・華水供」のうちの華水供とは違います。毎朝の御祈禱の場合は、本来一週間単位の浴油供に受験日や交渉日など当日をプラスする一日単位の浴油を便宜上「華水供」と呼んでいます。

待乳山使り

たけした事務所法要 報告

二月十日、たけした事務所様の
大般若法要を厳修いたしました。
たけした事務所様は毎年当山に
て法要を行っており、およそ二百
名の方が参加されました。僧侶の
称える大般若経の転読によって、
今年一年の厄除けを祈願いたし
ました。



ボーイスカウト修行体験 報告

二月十七日から十八日にかけて、浅草寺台東七団
ボーイスカウトの皆さんが当山に訪れました。住職
の法話を聞いた後、僧侶の指導の下、本堂で坐禅を
体験しました。翌日、



境内の清掃も行いまし
た。短い時間でしたが、
ぜひ当山での経験を学
校での生活にも活かし
てください。

お宮参り

三月三日、鈴木東子ちゃんのお
宮参りを行い、行者様よりご加護
を授かりました。尊天様のご加護
で健やかに成長されることをお祈
りしております。



四月御縁日大法要 行事紹介

安全講祈禱会

四月十五日(日) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

皆様の安全を祈願する安全講を執行いたします。
さて仏教には「安心立命」という言葉があります。
この言葉は元々儒教の言葉で「安身立命」と書きま
した。「安心立命」は、煩惱を離れて常に心を穏やか
に保つことで天命を全うできるという意味。対して
「安身立命」は、暮らしが安定し身の安全を保つこ
とで天命を全うできるという意味です。

心の平安と身体の安定。どちらも欠かすことがで
きないからこそ、二つの言葉に分かれたのだと思ひ
ます。聖天様のご加護をいただき身の安全を保つこ
とで、心を安らかにする一助になれば幸いです。

安全講では、家内安全、身上安全、交通安全、旅
行安全の四種類の安全祈願を行います。用紙に必要
事項をご記入の上、事務所にて
お申し込みください。

また例年はお守りをパウチ
加工してお渡ししてありまし
たが、今年から環境保護のため
加工なしのお守りをお渡しし
いたします。先月の告知から変更
になりましたことをお詫び申
し上げます。



安全講特別講演 待乳山笑点

安全講終了後、大広間にて特別
講演を開催いたします。



講演のたびに参加者の皆さん
を爆笑の渦に巻き込んだ「待乳山
笑点」が二年ぶりに帰ってきます。
落語家の柳家千寿さんの落語と
バンドの奏でる音楽をお届けす
る予定です。ぜひ音楽と共に途切
れなく飛び出す名調子に聞き入
ってください。入場は無料です。

出演 柳家千寿(落語家) 吉田一行(MC)
内村和彦(ギター) 金田洋一(ベース)
深田有一(ドラム)

御奉納

昨年、世話人会より平田住職に贈られ
たしだれ桜が中庭に植えられました。しだれ桜はそ
の名の通り枝がやわらかく垂れる桜で、三月下旬か
ら四月にかけて開花します。当山を訪れた際はぜひ
ご覧ください。



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズで紹介いたします。

対談 聖天様はこわい神様なのか ③

(歡喜第十一号 昭和四十二年発行より)

伊波信次郎・北原清至

伊波 お山の先代の住職さんの頃、東京のある所の芸者さんが信仰しておりました。その人の家に入入りしていた呉服屋さんに入れ上げてしまつて、すっかり騙されてしまったのです。それで口惜しくてお山へご祈禱を頼みに来て、ご住職に会い、かなり強く相手を懲らしめてくれという訳なのです。ご住職はその頼みをきいて、「どうしても相手をおたおたというなら祈禱してみましよう。その代り貴女自身も同じように苦しみますよ。」と諭されてよくよく考えたら、その祈禱をとり止め、自分自身の不明を詫び再起出来るように聖天様にお願ひしたそうです。それを機会に芸者をやめ、小料理屋を開き、晩年は養女をもらつてその人なりに成功して過したということです。これが信者としてとる態度ではないでしょうか。

ですから決して無理なお願いはしないほうがいい何か障りが現れないことはない。聖天様は確かに強い神様です。それじゃあ君はどういうお願ひしているのか、と言われれば、「私にとりまして拙いこと、一切の悪事災難を除けさせて下さい。」と常にこれだけです。

北原 勿論、人間は欲が強いから商売上で今日は是非先方の人と会えるようにとか、交渉がうまくゆくようにとか、心に留めることもありますが、然し私の場合も言葉に出ることは、先ず家内安全無病息災です。

伊波 それが宜敷いんですな。ですから無理な願いをせず、北原さんのおっしゃるような、ごく平凡なお願ひをしておれば、聖天様はその方に応じてご利益を下さる。

北原 とにかく何十年も長く信仰していても、今日一日の行いが信者らしい一日でなかったら信仰していない人と同じことなんです。ですから毎日が新しい気持ちで信仰しなければいけないんです。

伊波 それで人を悩ますような行いをしていては良いことはありませんね。人に良い事をするとその日は良い気持です。同様に人に迷惑を掛けたり困らせては良い事ありませんよ。

北原 信仰しているものは利己的なことを常に反省しなければならぬと思います。

伊波 要するに信仰とは常に感謝の念をもつて過すことを心がけていけば、決して疑問のおきる余地が無くなるんですがね。勿論永い信仰生活の内に相当苦しい時もありました。然しさつき北原さんのおっしゃったように運氣などない場合、例えば大きな川があつて向岸へどうしても渡りたいが舟が無いとします。これを無理して渡ろうとすれば途中で溺れてしまうという事は明らかです。また苦しい時にこの川を渡りきつてしまわなければと小さな舟で無理しても、神様のお力を願つても無理なことが多い。このようなときは、往々にしてご利益をいただけな

いと愚痴になり易いことがあります。

半年なり一年たち運氣が来るといいますか、その川を渡れるだけの舟が出来たといいますか、無事に向う岸に着いてみますと、その時自覚出来ませんでした。「あの時小さな舟しかなくてご利益をいただけなかったのではない。今、自分が渡れる力が出来て授けて下さつたのだ」と思うのです。

それ迄には、焦つたり迷つたりする。聖天様ご利益下さらぬのか、などの疑問を持ち易いのです。然し私の場合こんな時亡父の教えもあり、ああこう言う時はなおさらお縋りしなければいけない、と反省したものです。ですから北原さんと同様に聖天様のお力に対して疑念を持ったことはただの一度もありませんね。

北原 もう信仰が深くなればなる程、自分が苦境に入った時でも、ああこれは神様のお告げだと思つて疑いませぬよ。ある程度安心立命の境地をつかんでいるのではないのでしょうか。

伊波 結局信仰しているからこれだけですんだんだ、と苦境に際しては考えを持ちますね。

北原 唯私は今五十四歳ですがその間一度も大病をしたことがなく過ごせたことは、これはもう聖天様の不変のご加護だと思つています。(終り)

お参り作法説明会 開催のお知らせ

日時 五月六日 午前九時から十時半予定

詳細は次号お伝えします。

四月行事予定

御縁日大法要

安全講祈禱会

四月十五日(日) 午前十一時 講金一、五〇〇円也(二鉢増毎五〇〇円)

皆様の諸事の安全を祈願し、お守りをお授けいたします。

特別講演 待乳山笑点

四月十五日(日) 正午 参加費 無 料

安全講終了後、大広間にて落語とバンドのライブを行います。ぜひご観覧ください。

朝まいり会

四月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、読誦終了後に食事作法を行います。

日曜勤行

四月八日(日) 午前九時 参加費 無 料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

四月八日(日) 午前十時/午後一時 会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

十分前までに受付してください。午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

四月二十八日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

四月二十五日(水) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

五月の行事 御縁日大法要

香湯加持会

五月二十日(日) 午前十一時 講金 二、〇〇〇円也

祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壱万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。